

講演題目

科学とイノベーションの同時危機のメカニズムー

日本沈没を救う方法はあるか？人材育成の観点から

講演要旨

20 世紀後期に「科学技術立国」として世界を牽引した日本の科学とハイテク産業は、21 世紀に入って突然凋落を始めた。経済の停滞にとどまらず、原発事故のような社会への大打撃を招きかねないイノベーションの喪失。いったい何が起きたのか。その原因は企業の基礎研究軽視のみならず、科学技術イノベーション政策の失敗にあったことを、ベンチャー支援策に成功した米国との比較から解明する。ついで、科学の発見からイノベーションが生まれる原理を明らかにし、日本の科学とイノベーション復興に向けた具体的な処方箋を示す。さらに、イノベーション・ソムリエ(科学行政官等)の不在とイノベーター(ベンチャー起業家)の欠如を論じ、人材育成の観点からイノベーション生態系をどのように再生させるかを提示する。

山口栄一略歴

1955 年、福岡市生まれ。

1977 年、東京大学理学部物理学科卒業。

1979 年、同大学院理学系研究科物理学専攻修士修了、理学博士(東京大学)。

1998 年まで、NTT 基礎研究所主幹研究員。その間、アメリカ・ノートルダム大学客員研究員として、1984 年より 1 年間、アメリカ・サウスベンドに在住。さらにフランス IMRA Europe 招聘研究員として、1993 年より 5 年間、南仏ソフィアアンティポリスに在住。

2003 年まで、21 世紀政策研究所研究主幹。

2014 年まで、同志社大学大学院教授、その間、2009 年まで英国ケンブリッジ大学クレアホール客員フェロー。

2014 年より現職。

5 社のベンチャー企業を創業。

著書に『Innovation Crisis: Successes, Pitfalls, and Solutions in Japan』(Pan Stanford Publishing 2019 年)、『イノベーションはなぜ途絶えたかー科学立国日本の危機』(ちくま新書 2016 年)、『物理学者の墓を訪ねるーひらめきの秘密を求めて』(日経 BP 2017 年)、『イノベーション政策の科学ーSBIR の評価と未来産業の創造』(共著、東大出版会 2015 年)、『死ぬまでに学びたい 5 つの物理学』(筑摩選書、2014 年)、『イノベーション 破壊と共鳴』(NTT 出版、2006 年)など。

